

新しい薬学を京都から世界に向けて

学 長 乾 賢一

高い志、夢と希望を抱いて京都薬科大学に入学された新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご父母やご家族の皆様も、さぞお喜びのことと心からお祝い申し上げます。

さて、薬学6年制は質の高い薬剤師の養成という社会的ニーズから2006年に始まりましたが、本年3月に第2期目の卒業生を社会に送り出しました。本学では356名が卒業し、企業、病院、薬局、大学（進学）等において新たな活動を始めています。本学の建学の精神「愛学躬行」を心に刻みながら、全国各地でひとときわ輝く活躍をしてくれるであろうと期待しています。これまでのところ、本学卒業生の就職状況は非常に好調であり、また国家試験の合格率も高い位置を保っています。

今、大学の社会的役割が問われています。昨年8月の中央教育審議会の答申では、新たな未来を築くための大学教育の質的転換が求められ、生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学への改革が論議を呼んでいます。幸いにも、薬学6年制の教育改革は、高度化・多様化が進む医療環境の中で、真に社会に貢献する人材育成を目指すものであり、まさに

一歩先行した教育改革と言えましょう。本学では、問題発見・解決型の教育に力を注ぎつつ、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた教育を実践し、研究能力を持った薬剤師「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を目指しています。6年教育のワンサイクルが終わったところでカリキュラムの見直しが進められ、昨年4月から年次進行で新カリキュラムに移行しました。すなわち、教養教育や語学教育の充実、少人数対話型授業などを含む初年次導入教育を拡充させています。また、今年度から1年次、3年次、5年次にTOEICテストの全員受験を実施します。現在学生達は、3年次後期から研究室に在籍し研究に取り組んでいます。今年から6年次の卒論発表会（ポスター）を英語で行うことにしました。またこれにあわせて、学術交流協定を締結している外国大学の教員・学生を招待し交流を深める予定です。グローバル化に対応するために、この新しい企画が、学生達の感性に磨きをかける一助になることを願っています。さらに本学では、これまでも増して分野配属した学生の研究活動を推奨するために、2012年度から優秀研究賞を設

CONTENTS

新しい薬学を京都から世界に向けて 学長 乾 賢一	1～2	2013年度前期学費の納入について	13
ご挨拶	2～5	国立病院機構京都医療センター・洛和会音羽病院と学術交流等に関する協定を締結	13
2013年度大学院入学選考結果	5	奨学金について	14～15
特集「基礎科学実習」が始まりました	6～8	Library News	16
2013年度入学試験結果と総括	8	受賞	17
第1回World Café in 京薬 開催報告	9	お知らせ	18～20
英語でのコミュニケーション能力向上のために	10～11	京薬会だより	20
卒業生からのメッセージ	11	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	20
学内合同企業説明会を開催しました	12		

け、卒業時に表彰することになりました。このように、6年制薬学に対する本学の取り組みは、教職員の創意工夫とたゆまぬ努力によって、学生と一体感を保ちながら特徴ある展開を示し、おおむね順調に進行しています。KPU一丸となった今の勢いは、研究活動にも着実に繋がっており、本学の伝統を継承し発展させるものと期待しています。

最後に、新入生の皆さんに強く伝えたいことがあります。これからは受験勉強から解放され、皆さんは本学学生として自分の意志で無限の可能性に向けて挑戦することができます。しかし、入学直後の開放感から脱却できず、自己満足に陥り、薬学という学問の厳しさに気づくことに遅れる学生もいます。

皆さんには、「初心忘るべからず」、「少年老い易く学成り難し」という言葉をしっかりと胸に刻んでいただきたいと思います。加えて、スポーツやその他の課外活動等を通して、また「歴史と文化の街」京都での学生生活を通して、広い視野で豊かな人間性を育ててほしいと思います。これはこれからの薬剤師に強く求められる素養であります。私は「開かれた学長室」をモットーとしています。皆さん、是非一度訪ねてください。

新入生の皆さん、新しい薬学の未来を拓き本学から世界に向けて、新しい6年制薬学の教育・研究成果を発信しようではありませんか。皆さんの健康と充実した大学生活を心から祈念します。

定年退職のご挨拶



病態薬科学系
薬物治療学分野
教授 竹内 孝治

昭和56年9月にハーバード大学医学部での留学生生活を終え、10月に京都薬科大学の辞令を頂き、応用薬理学教室（応薬）で講師・助教授として13年、新設の薬物治療学教室（薬治）で教授として18年を過ごし、今年3月末をもって31年間お世話になった本学を定年退職いたしました。多くの思い出と共に無事にこの日を迎えることができましたことに対し、教職員の皆様に深甚なる感謝の意を表します。

東京大学の学生時代からの恩師である岡部先生が主宰されている応薬に加わり、“潰瘍研究のメッカ”とすべく、休日も返上して学生達と“研究のレベルアップ”を目指して日々努力したことが懐かしく思い出されます。応薬時代には、岡部先生が日曜日も大学に来られていたため、私も殆どの日曜日（午前中）を大学で論文執筆に費やしました。平成7年、学生3名と臨時職員1名の総勢5名で薬治がスタートし、“国際的に認められる研究室”をモットーに、“消化管の機能調節と粘膜防御機構の実体解明”に関して研究を進め、国際学会での成果発表や論文発表に力を注ぎました。平成16年には岡部先生の定年退職に伴い応薬を統合し、多くの学部生に加え、院生も毎年10名ほど入室するようになり、彼らの貢献により順調に研究成果も挙がりました。特に、重炭酸イオン分泌調節におけるカプサイシン感受性知覚神経の役割、消化管機能調節におけるプロスタグランジンE受容体サブタイプの特定、傷害胃に

おける酸分泌減少と一酸化窒素の関連、NSAIDの消化管傷害性におけるCOX-1/COX-2阻害の必要性などに関する知見の多くは世界で最初の報告であり、これらの論文の殆どはこの分野で国際的に極めて評価の高い学術雑誌であるGastroenterologyに掲載されました。また、院生達と参加した海外の学会では“Kyoto Mafia”と呼称されるほど、国際的に認知された研究室となり、さらにポーランド、ハンガリー、ロシア、米国からポスドクあるいは研究員として薬治で研究に携わる者も増え、“潰瘍研究のメッカ”を目指した当初の目的はほぼ達成出来たように思います。こうして薬治での研究が進む中、国際薬理学会消化器部門の執行部代表や国際潰瘍学会の理事長に選ばれるなど、これらの学会活動を通して、京都薬科大学および薬治を国際的にますます浸透させることが出来ました。

平成19年から研究科長を拝命し、また22年からは副学長も兼務させて頂き、大学運営に携わる機会も得ました。ちょうど薬学6年制の移行時期と重なり、専ら大学の組織や管理・運営、および新設大学院の内容に関する議論の中で数年が過ぎたように思います。6年制になり、外部資金の減少、大学院定員の極端な減少など、研究面においてマイナス部分も見られますが、「良い時期に退職しましたね」と言われるような変革にならないように祈る次第です。研究活動を大切にしてきたことは京都薬科大学の伝統であり、また大学における研究はこの上ない教育の実践でもあるため、研究活動の充実は、今後、本学がさらに発展するために大切なことであると思います。

最後に、在職中に数々のご厚情を頂きました皆様に心より御礼申し上げますと共に、これからも一OBとして京都薬科大学の発展と教育・研究活動における一層の昂揚を見守り、応援させて頂きます。



創薬科学系
生薬学分野

教授 吉川 雅之

私は、昭和42年に本学に入学し、卒業論文の研究のために生薬学教室に配属させて頂き、新進気鋭の小塚睦夫先生から卒業論文のご指導を賜りました。天台烏薬という生薬の真黒いベタベタしたエキスの中からアルカロイドの美しい結晶を得て、その構造が判明した時には大変感動したことを今も鮮明に思い出します。生薬の中から、伝承薬効に基づく有効成分を取り出し、分解や合成などの化学的知見とスペクトルデータの解析から構造を決定することは、まるで推理小説の主人公となって犯人を突き止めるようで、シャーロック・ホームズになった気分が胸が高鳴る大変面白いものです。また、私がお手伝いした研究が米国化学会の雑誌に掲載され、別刷を戴いたときは、嬉しくて天にも上る気持で、出版費用と称して親父から小遣いをせしめたものでした。

大学院進学をお願いしたところ、小塚先生のご方針で私を大阪大学薬学部の生薬学講座に推薦して戴き、何も判らずに阪大に進学しました。阪大の生薬学講座は、日本でも有数の厳しい研究室であることを知ったのは入学後のことで、特に高名な北川 勲先生から直接ご指導、ご薫陶を賜りました。その後、北川先生のご指示で、世界で最も厳しいと噂されていたハーバード大学の岸 義人先生の研究室に留学させて頂きました。私は生来、シャイで人見知りが激しく、また小心者で学会発表もまともにできない有様でしたが、阪大での20年間に亘る修業の御蔭で少し改善されたように思われます。

平成2年にやっと本学に帰参することが出来ました。本学の雰囲気は和気藹々としており、ご理解ある先輩の先生方のご配慮もあって、大学の役職も免がれ研究に没頭できました。松田久司先生を迎えることができ、化学と生物活性の両輪で研究を進め、中村誠宏先生も加わり合成的な展開も可能となりました。研究を通して学生諸氏に私が経験できたような感動を味あわせ、学会発表や論文を出すとともに、直ちに人の役に立つ研究を目指しました。これまでに原著論文520報ほどを発表するとともに、私共の研究が役立って、OTC医薬品、医薬部外品、機能性食品および化粧品が開発されたことは喜ばしいことです。これらの成果は、松田先生らの生薬学分野スタッフと学生諸氏の努力および近畿大学の村岡 修先生らのグループのご協力によって達成されたもので衷心から厚く御礼を申し上げます。また、新しい有用資源の開拓を目指して海外へも度々出張しフィールド調査を大学院の学生諸氏と経験できたことは良

い思い出となりました。十分な研究時間と研究費そして自由な研究環境への大学のご理解とご支援に心から感謝して退任のご挨拶とさせていただきます。



基礎科学系
一般教育分野

教授 秋澤 雅男

大学教員デビューしてから早36年余、京都薬科大学の専任になってからも既に22年余が過ぎた。今は無き南校舎4階の研究室にやって来て、箒とちり取りで掃除を始めたのが1991年3月の末であった。古びただが味のあるデスクと本箱、俗にマッカァサー色と称されたライトグレーの保管庫とロッカー、これまた年季の入った衝立と椅子だけの部屋に、自宅から多数の書籍、テーブルと椅子等を運び込んで我が住処らしくしたのは4月8日の入学式の前であった。窓の外に見える音羽山を仰ぎ、故深江 浩先生と当時の田中 久学長の配慮に感謝しつつ14年に亘る非常勤講師生活から足を洗うことが出来た安堵の念を噛み締めたことを、今でも鮮明に憶えている。

その当時ドイツ語は、1年次では初級文法と読本の2科目が、2年次は中級ドイツ語が1科目必修であった。各学年6クラスの授業を、故片岡先生と桑形先生そして非常勤講師の方と共に担当したのだが、専任でそれぞれ週に4コマから5コマのドイツ語の授業を持っていたことになる。私が自分の専門である哲学(哲学的人類学)を担当することになったのは、1994年度以降のことである。ドイツ語の授業はその場の熱いパフォーマンスで、たとえ中級であれ、なんとか乗り切ることが出来るが、哲学の講義はそうはいかない。事前の準備が肝要である。しかも哲学的人類学と称したからには、もともと不十分な西洋哲学の知識以外に、進化論史・自然人類学・文化人類学・比較行動学等々の知識を身につける必要があった。しかし、長い間の非常勤講師生活のせい?で、学識の蓄積が無いことが、ここで重くのしかかって来た。毎回話をしながら「俺は嘘をついている、誤魔化している」という後悔の念に駆られていた。今年1月の最後の講義を含めて、満足に語りきったと思えるものは3回もない。

過去を悔いるのはこのぐらいいして、私の未来と未来から将来する私の現在はどうなるのか、どうするのかを考えてみよう。私の確実な未来は、私自身の死である。その先は無い。死に向かい老いていく自分の有様に戸惑い、生きてゆく現在の決断に私は躊躇している。ただ今言えることは、他者を気にせず古典的な哲学書をじっくりと読破すること、自

然と社会の中で心身全体で活動する青少年を育成することである。

別れに一言、哲学は真理を、倫理学は善を追究する。すると哲学倫理学とは謎の学ということになるう。



薬用植物園

講 師 後藤 勝実

3月末日で京都薬科大学を退職することとなりました。約40年間に亘り、本学に席をおき、心中複雑な思いであり、一種何とも云えぬ気持ちになることは事実であります。在任中は、植物関係一筋でやってまいりました。植物園のメンテナンス、標本等資料の収集・整理、また隠れていた資料の掘り出し等に時を尽くしてまいりました。私個人の研究材料のためもあり、後から来る人達の研究の一環に少しでも役に立てばと思い、気付くことをしてきたつもりであります。

それらをおこなうにあたって大学当局が反対しなかったことが、私にとっての最大の協力であったと考え、感謝しております。心より御礼申し上げます。どうも有難うございました。植物園のメンテナンスも、私の考えで実行し、やってまいりました。学生諸君が実習のため訪れた時に、自分なりの植物園をアピール出来たと考えております。あるがままにそれら植栽植物の生活を考慮して配置し、本来の姿をどう見せるを常に頭から離すことなく、おこなってきたつもりであります。標本園とそうでない植栽の違いとを如何に際立たせるかと云うことであります。往々にして他の植物園は除草もしており、見ていてこれが植物園かと勘違いをするような姿を呈しているところが大部分で、ほとんどの植物園がそうであります。果たしてそれが植物園なのでしょうか。私は植物を決して盆栽化せずに、いかにそれらのものが、自然状態に近付けるかを心掛け実践してきたつもりであります。ある見学者が当園の植栽を見て、一味違う植物園だと驚かれたことを思い出します。

今の世の中、金額に頼れば、植物の種類は集めることが可能です。一部をのぞき、世界中のものを収集できましょう。しかし、それらの樹命（樹の太さ）を経たものは金額で手に入れることはできません。植栽している樹の歴史的な太さこそが、植物園であると信じております。言い換えれば、すべてに当てはまるでしょう。人、建物、その他、森羅万象すべてであります。樹を切る、建物を壊す、人の寿命を変えてしまう。成長を見守り、共に生きること

より、切ってしまえば手っ取り早く終わります。手間が省けます。今後、色々な理由があるでしょうが、樹命をまっとうさせてやって下さい。植物園の価値は、種類の多さではなく、いかに寿命を経た植物が生育しているのかだと信じてやみません。

時間がまいりました。ある歌にこんな詩がついておりました。まさにその心境であります。

Time To Say Goodbye.



放射性同位元素研究センター

講 師 村田 保

1974年に京都薬科大学大学院修士課程を修了後、39年の長きにわたり教員として勤めさせていただきましたが、この度、定年での退職を迎えました。この間、無事に勤められたのもひとえに京都薬科大学の皆様方の寛容と忍耐のお陰と心より感謝しております。

1974年4月に、学部生及び院生として所属していた薬理学教室（現薬理学分野）の助手として採用していただきました。研究室は駐輪場のあたりの5号館3階にありました。故宮田貞雄教授、大幡勝也教授（元学長・名誉教授）、河野茂勝講師（名誉教授）のもと、研究や大学院生、学部生の卒業論文実験の指導、学生実習の指導に携わってきました。1979年に地下1階、地上3階建てのRI研究棟（放射性同位元素研究センター“RIセンター”）が現在の中央庭園プラクティテラス付近に建設され、放射性同位元素を用いた研究が開始されました。薬理学教室においても放射性同位元素（RI）を用いた実験が開始され、その見学等のためしばしばRIセンターに出入りをしていました。この縁で1985年1月にRIセンターへ異動しました。RIセンターでは放射線取扱主任者である故高橋智雄講師のもとで放射性物質の安全な取り扱い及び放射線安全管理をお教えいただき、RIセンターを利用する学生・院生・研究者が安全にRIを取り扱えるようサポートしていました。しばらくして、第1種放射線取扱主任者免状を取得し、南校地に建設された生命薬学研究所（現S棟）に置かれたRI研究施設の放射線取扱主任者に任じられ、放射線安全管理業務に従事しました。また、RIセンターに鈴木哲朗講師が着任され、二人でそれぞれのRI施設の安全管理を担当していましたが、RI施設は本校地に統合され、さらに2007年11月に南校地のS棟3階に移転しました。

RIの使用は放射線障害防止法により規制を受けており、自由に使用することはできません。放射線に

よる障害を防止し、安全を確保するために教育訓練を受ける必要があります、当センターが教育訓練を担当していました。毎年の受講者には新規及び継続の利用者がおられるので、教育訓練に新しい話題を入れようとして取り組んでいました。適切なのが見当たらない時は難渋したことが思い出されます。学生の皆様とはあまり触れ合う機会はなかったですが、RI実験のため来られる学生さんとお話しさせていただいたのは楽しい思い出です。

最後になりましたが、京都薬科大学の益々のご発展と、学生の皆様、教職員の皆様のご健勝をお祈りし、退職の挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

昇任のご挨拶



分析薬科学系
薬品分析学分野
准教授 武上 茂彦

本年1月1日付けで薬品分析学分野の准教授に昇任させていただきました。これまで以上に学生教育や研究に従事し、京都薬科大学の発展のみならず社会に貢献しなければならないという重責をひしひしと感じております。私は1997年に本学大学院博士前期（修士）課程を修了後、同年に本学薬品分析学教室（現薬品分析学分野）の助手として採用いただき、前教室主任の北村桂介教授のご指導の下で、約10年間、「分光学的手法によるフェノチアジン系薬物と生体膜モデルリン脂質リポソームとの相互作用の解明」に関する研究に取り組んでまいりました。現在は、同研究室を引き継がれました北出達也教授の下、「脂質ナノ粒子を用いた新規分析法の開発」や「がん組織指向性脂質ナノエマルションの開発」に関する研究を行っております。

さて、本学での6年制薬学教育も軌道に乗り、また、新たにバイオサイエンス研究センターが建築されるなど、本学の教育・研究におけるハードとソフト面は非常に充実したものとなってきました。教育が充実している反面、学生の皆さんの中には、“こんなに勉強しないといけないの？”と感じている方もおられるかもしれません。少し話はそれますが、ほんの昔、日本海軍は当時の技術の粋を極めた最新鋭巨大戦艦「大和」を建造しました。ところが、時代は航空機が主流になっており、「大和」はほとんど活躍の場を与えられることなく、沖縄戦でアメリカにより撃沈されてしまいます。しかし、「大和」や他の艦船を建造する上で獲得した基盤（知識、技

術力、開発力）は、敗戦後何もなかった日本を短期間で造船世界一へと導く原動力となったのです。学生の皆さんは現在、薬剤師、特にファーマシスト・サイエンティストとしての基盤を築いている段階です。本学在籍時は学ぶことが多いがゆえに勉学に苦しみむかかもしれません。しかし上の日本の造船の例のように、本学6年間を通して築かれたファーマシスト・サイエンティストとしての基盤は本学卒業後、必ず皆さんの能力を存分に発揮させるものであると確信しています。また、様々な分野で活躍されている本学卒業生の諸先輩方も皆さんの才能を上手く引き出してくれることでしょう。私も引き続き、皆さんのファーマシスト・サイエンティストの基盤形成の一助となれるよう、誠心誠意努めて参ります。最後になりますが、今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2013年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（冬季募集）および薬科学専攻博士後期課程（冬季募集）並びに薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の入学選考結果

入試課

2013年度薬学専攻博士課程（冬季募集）および薬科学専攻博士後期課程（冬季募集）の入学選考を1月25日（金）に実施し、同日に合格発表を行いました。

2013年度薬学研究科薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の入学選考を2月20日（水）に実施し、2月26日（火）に合格発表を行いました。

博士課程（冬季募集）の志願者は2名で合格者は2名でした。博士後期課程（冬季募集）の志願者は2名で合格者は2名でした。薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の志願者は1名で合格者は1名でした。

○2013年度薬学専攻博士課程（冬季募集）の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

○2013年度薬科学専攻博士後期課程（冬季募集）の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

○2013年度薬科学専攻博士前期課程（二次募集）の合格者数等

	外国人特別
志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

「基礎科学実習」が始まりました

本学に入學した学生の皆さんは、きっと白衣を身につけ実験器具を手に持ち実習に励む自らの勇姿を思い描くはずでしょう。しかし、これまでは、厳密に言うところ、まだ4年制であった1995年度以来、実習は2年次生になってやっと始まることになっていました。だが、2012年度入学生から適用される新カリキュラムでは1年次の実習が復活したのです。

その「基礎科学実習」を企画し実習計画を立て、実際に指導された先生方のご苦労が、また具体的な実験実習の内容(①リン酸緩衝液の調製と緩衝作用の確認、②マイクロピペッターの操作とタンパク質溶液の希釈、③植物細胞の体細胞分裂と動物組織の顕微鏡観察)が、「基礎科学実習」担当責任者の藤室雅弘教授により紹介されています。

学生さんの感想から読み取れるように、実験実習に対する喜びと期待は大きいものと思われます。今後この「基礎科学実習」が見事に開花し、将来のファーマシスト・サイエンティストを育成する基盤となることを期待します。

「基礎科学実習」を担当して 細胞生物学分野 教授 藤室 雅弘

ご存知の通り今までのカリキュラムでは、学生は2年次の前期で生化学実習や分析化学実習などの薬学専門教育科目実習を受講することで、初めて実験を体験することになっていました。しかし、2012年度の入学生から対象となる新カリキュラムでは、1年次後期に新しく基礎科学実習が導入されることとなり、実際に昨年12月より当該科目が開講されました。

もともと科学実験などへの興味は人一倍強いであろう京薬生。彼らの大学入学後最初の実験科目ということで、この実習への期待は大きいに違いありません。そしてこの実習で得られるであろう知識やそれに基づく更なる科学的興味が今後の彼らの薬学生としての進路に大きな影響を与えるであろうことを考えると、最初の実習科目担当者として大きな責任を感じつつ、慎重に実習計画を立てることとなりました。当科目は、細胞生物学分野の私と賀川裕貴助教、渡部匡史助手、そして臨床腫瘍学分野の吉貴達寛教授、飯居宏美助教、さらに、学生実習支援センターの若槻徹講師、河野享子助教、平山恵津子助教で担当しています。上記の教員で何度も集まり基礎科学実習の内容を検討しました。なお、会議には学生実習支援センター長の北出達也教授にも参加していただき、貴重なアドバイスを頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

科学的な実験を行うには実験に取り組む正しい態度と基本的な実験操作法を身につけることが大切になります。本実習の主な目的は、実習の心構え、身だしなみ、実験器具の使い方、濃度計算、基本操作、実験結果の取り扱い方、実験レポートの記載等

について学ぶことです。つまり、2年次よりスタートする生化学実習や分析化学実習などの薬学専門教育科目実習の基礎となる知識と技能を習得することを目的とします。このポイントを押さえつつ、いかに学生が興味を持つ内容にするのかという点で熟考を重ねました。各教員がいろいろな案を出し合いそれらを練り上げた結果、最終的に次に説明する3つの実習課題が決定しました。

①リン酸緩衝液の調製と緩衝作用の確認

はじめに、モル濃度の計算を行い必要な量の試薬を電子天秤で量り、メスフラスコ等のガラス器具を使ってリン酸緩衝液を調製します。次に、スターラーとpHメーターを使用してリン酸緩衝液に強酸や強塩基を加えpHを測定し、その緩衝作用を確認します。なお、ここではホールピペットやメスシリンダー等の実験器具の扱い方も学びます。実験後にはpHの概念やpH緩衝作用について考察します。各学生は保護メガネを装着して緊張しながら塩酸やNaOH水溶液をリン酸緩衝液に加えますが、緩衝作用によりpHが変化しないことを直接体験します。



pHメーターの操作手順の説明を聞く学生。教員の説明の後、学生は自分たちで操作を行います。



保護めがねをかけ、少し緊張しながら操作しています。

②マイクロピペッターの操作とタンパク質溶液の希釈

マイクロピペッターを用いて100 μ L、200 μ L、400 μ L…とタンパク質（ウシ血清アルブミン）溶液を計り取り、リン酸緩衝液と混合して様々な濃度のタンパク質希釈液を調製します。分光光度計を用いて、調製した各タンパク質希釈溶液の波長280nmにおける吸光度を測定し、濃度と吸光度の関係について考察します。またこの実習では、濃度既知のタンパク質溶液の吸光度測定により検量線を作成し、濃度未知のタンパク質溶液の吸光度からその濃度を算出します。初めて扱うマイクロ・スケールの世界に戸惑いながらも、各実習グループはどこまで正確に濃度を測定することができるのか、懸命に頑張っていました。



初めて使うマイクロピペッターですが、実習が終わるころには扱い方は上達します。



タンパク質溶液の濃度と吸光度の関係についての説明を聞く学生達。

③植物細胞の体細胞分裂と動物組織の顕微鏡観察

植物細胞の観察では、タマネギ種子から発根したタマネギ根の細胞核を酢酸オルセインにより染色し、タマネギ根端成長点の観察標本（プレパラート）を作製します。そして顕微鏡でタマネギ根端の各細胞分裂のステージ（間期、M期前期・中期・後期・終期）の細胞を見つけスケッチします。多くの学生は夢中になって、染色体がきれいに凝集したM期の細胞を探しスケッチしていました。なお、この実習では基本的なプレパラートの作成とともに顕微鏡の使い方も学びます。さらに、デジタル顕微鏡（接眼レンズの代わりにデジタル画面が顕微鏡に付いている）を用いて、甲状腺、肺、脾臓、肝臓などのヒト臓器のヘマトキシリン・エオジン（HE）染色標本を観察・スケッチします。多くの学生は初めて見る分裂途中の細胞やヒト組織の細胞に夢中になります。



タマネギ根の細胞を染色しプレパラートを作成しています。学生は真剣です。



酢酸オルセイン染色の操作について指導を受けています。

なお、昨年度は1年次生約360人を4つのグループに分け、約90人の1グループをさらに3つの班(I, II, III班)に分けました。30人の各班は上記の課題①, ②, ③を3日間かけて行います。I班は課題①→②→③、II班は課題②→③→①、III班は課題③→①→②というスケジュールで実習は進行します。また、各班は、実習の初日と最終日に2時間程度の講義を受講します。なお、学生360人を4グループに分けるので、この実習スケジュールを4回繰り返して行うことになります。

さて、以上のような基礎科学実習を終えた学生からの感想をいくつか紹介したいと思います。

コメント#1 高校では使ったことがなかった実験器具を実習で使いました。テキストには記載されていなかったが、これらの実験器具を使う理由や上手な使い方なども実習のなかで教えてもらうことができ、よかったと思った。(緩衝液調製)

コメント#2 緩衝液の原理は高校の授業で習っていたので知っていた。実習で緩衝液の緩衝作用を直に見ることができた。緩衝液の作成は手順が多く時間がかかった。(緩衝液調製)

コメント#3 マイクロピペッターとチップを使った操作では、液体がうまく採取できず何度もやり直した。結果的には数値の誤差は大きくなかったので実験は成功したと思う。今後の実習では、もっとうまく使いこなせるようになりたい。(マイクロピペッター)

コメント#4 実験に不慣れで手際が悪かったが、説明が丁寧で理解しやすかった。また、はじめて器具にふれるのが楽しかった。一年間の間にもう少し実験の機会があってもいいと思った。(マイクロピペッター)

コメント#5 顕微鏡を初めて使ったが、扱い方が実習書に分かりやすく説明されていたのでよかった。M期の凝集した染色体を見つけたときは感動した。実習の時間が短く感じられた。(顕微鏡観察)

コメント#6 はじめて人の臓器を顕微鏡で観察した。高校の実習では経験したことがない内容で面白

かった。顕微鏡を1人で1つ使えればいいのに…。(顕微鏡観察)

学生たちの感想からも伺えますが、開講されたばかりの本実習には、内容、段取り、テキストの説明などに改良すべき問題点も含んでいるであろうことは否めません。また、3日間という短い期間で、3種類の実習課題、更に導入講義として実験の内容、目的、実習を行うための服装やルールについて説明し、実習後には実験データの扱い方と考察、レポートの基本的な作成法についての実習後講義を行うことから、学生にとっては過密スケジュールであることは間違いありません。今後、これらの問題点を一つずつ、段階的に改善していきたいと考えております。また、限られた人員、スペースなどの制限はありますが、学生には最良の機会を提供したいというのが実習担当教員の一致した願いです。今後の基礎科学実習の展開にぜひ期待して下さい。

2013年度入学試験結果と総括

入試課

2013年度の学部入学試験が終了しました。志願者数・合格者数は下表のとおりです。

2012年に入り、経済状況はデフレの進行とともに、受験生は併願大学数の減少化および国公立大学志向は強いものの、一方就職に有利な、理系大学への受験意欲もでてきている。

その様ななかで、2012年3月に卒業した薬学部の薬学6年制の第一期生は、就職においても良好な結果を示しました。

2013年度の本学への全体の志願者数は、前年比408名、率で16.6%の増加(2012年度は、前年比112.1%)となり、薬学教育6年制開始(2006年度)以来志願者数で最高の数字となりました。

入試広報活動は、一年を通してオープンキャンパス、大学説明会(鳥取、岡山、三重、広島、福井、愛媛で開催)、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問等の活動により志願者の増加・確保に努めてまいりました。

2014年度入学試験についても広報活動を通じて、志願者の拡大・確保に努める所存であります。もし、皆様のご親戚、ご近所、高校の後輩等で、大学受験を控えた方がおられましたら、是非とも本学受験をお勧めくださいますようお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	53名	53名
一般公募制推薦	80名	294名	80名
一般入学試験A方式	45名	1,087名	348名
一般入学試験B方式	180名	1,365名	401名
一般入学試験C方式	5名	71名	22名

(合格者数は3月15日現在)

第1回 World Café in 京薬 ～基礎演習と早期体験学習の向上に向けて～ 開催報告

カフェホスト 武上 茂彦（薬品分析学分野）

学内で初めて“ワールド・カフェ”を行いました。カフェのようなオープンでリラックスした雰囲気の中で、4～5人単位のグループで、また、後に述べますラウンドごとに、メンバーの組み合わせを変えながらテーマ（問い）に集中したダイアログ（会話）を続け、新しい知恵やアイデアを生み出す会議手法の1つです。最近では、多くの企業やNPO、自治体などで、教育研修や組織変革、ビジョン策定、社内コミュニケーションの活性化などに幅広く使われています。

初年次教育を強化するには、基礎演習と早期体験学習の相互連携が必要であるという考えのもと、2012年度から2科目の連携が実施されました。この連携をさらに進めるには、担当教員からの意見やアイデアが必要です。そこで、従来型のアンケートなどではなく、自由な雰囲気の中で話しができる“ワールド・カフェ”によって、意見やアイデアを収集することが計画されました。計画の実施にあたり、私はカフェホスト、つまり進行役的な役割を担いました。

“ワールド・カフェ”で大事なことは、おもてなしの心、すなわち普段の会議とは違う異空間を作り出し、参加者の皆さんがリラックスしてダイアログできる環境を提供することです。そこで、教務課員の皆さんにご協力頂き、手作りの“カフェエチケット（写真1）”、“テーブルメニュー”、“お菓子入れ”などを用意し、部屋（Q32講義室）全体にカフェのリラックス感を作り出しました。

さて、本ワールド・カフェの流れは、第1ラウンド「2012年度 基礎演習・早期体験学習をやってみて良かったこと（又は困ったこと）は何ですか？」、第2ラウンド「基礎演習や早期体験学習を終えて、学生はどうなっていて欲しいですか？」、第3ラウンド「来年度、基礎演習・早期体験学習でやってみたいことは何ですか？」という「問い」について各テーブルでダイアログを行い、全体セッションにおいて各テーブルのアイデアについて全員で情報共有しました。第1回ということもあり、カフェホストとして、進行に不安を感じていました。しかし、その不安を一掃するかのように、各テーブルで先生方の熱気にあふれた活発なダイアログが行われ、テーブルの模造紙には、スペースがなくなるぐらいの多くの意見やアイデアが描かれました（写真2）。参加された先生方からは「堅苦しい感じはなく、楽しかった」、「あまり話す機会のない先生方と話す機会ができ、情報共有することができた」などのポジティブな感想をいただきました。本ワールド・カフェで得られましたアイデアや意見は2013年度の基礎演習や早期体験学習に生かされています。

近い将来、学内で皆さんが参加する“ワールド・カフェ”が開かれることでしょうか。その時は積極的に参加してみたいかと思いますが？多様な考えや思いがけない発想に触れることができ、充実した時間を過ごすことができると思います。

最後に、ご参加いただいた乾学長をはじめ、基礎演習・早期体験学習担当の先生方、教務課員の方々のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

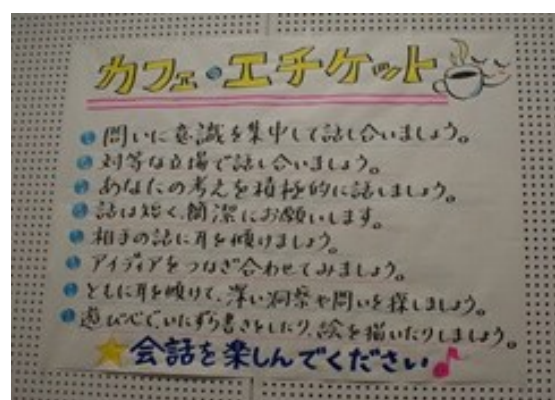


写真1：カフェ・エチケット



写真2：模造紙へのアイデアや意見の描写



写真3：ワールド・カフェ全風景

英語でのコミュニケーション能力向上のために ～TOEIC、卒論発表会～

教務課

インターネットの普及や企業活動のグローバル化が進み、共通言語としての英語の重要性が高まっています。それに伴い、英語力は付加価値ではなく必須のものになりつつあります。企業の採用試験では、受験条件としてのTOEICスコアを示していることもあります。英語ができない（話せない）ことは、将来の選択肢を狭めることにつながる状況が現れ始めていると言えるでしょう。

英語力の重要性は、将来一般企業で働く人のみの問題ではありません。

研究活動においても、英語でのコミュニケーション能力は重要です。例えば、国際学会では、自分の考えを正確に伝える、相手の意図を的確に捉え返答する。そうしたやり取りの中で、新たな気づきを得ることもあるでしょう。

日本には現在約200万人の外国人が定住し、年間800万人が日本を訪れています。病院や薬局で英語を話す機会も増えていくでしょう。また、医療の現場では、常に最新情報に接し、知識を更新していくことが求められます。そのためには、英語の文献を読むことが必要になってきます。

このような状況を踏まえて、今年度から大学の費用負担でTOEICの受験機会を設けます。TOEICをきっかけに自分の英語力を客観的に捉え、目標を設定し、継続的に英語力を磨いていってほしいと考えています。なお、1年次生はTOEICで700点以上を取ると2年次の選択外国語の単位が認定されます（手続等は教務課まで問い合わせてください）。

学内で実施および受付するTOEICについて、概要は以下のとおりです。この措置は今後も継続して実施します。今年度受験機会のない2・4年次生の方も、個人で受験する、来年度以降の受験に備えて準備を進めるなどしてください。

最初に共通言語としての英語と書きました。英語を身に付ければ、世界中の多くの人とコミュニケーションが取れるようになり、世界が広がることになるでしょう！

この機会を生かして、多くの方がTOEICを受験してくれることを期待しています。

また、生きた英語をつかう機会として、今年度から6年次生の総合薬学研究・演習の卒業論文発表会を英語で実施することになりました。発表会はポスター発表の形式で実施します。このうち、ポスターを英語で作成し（タイトル・所属分野名・発表者名は日本語併記）、研究内容の発表や質疑応答についても英語で実施します。

6年次生の皆さんには、この機会に英語力を磨いてほしいと思います。他学年の皆さんはぜひ今回の発表会場に来て、来年度以降自分の発表に対するモチベーションアップ、心がまえを作る場にしてほしいと考えています。

TOEIC概要

【スケジュール】

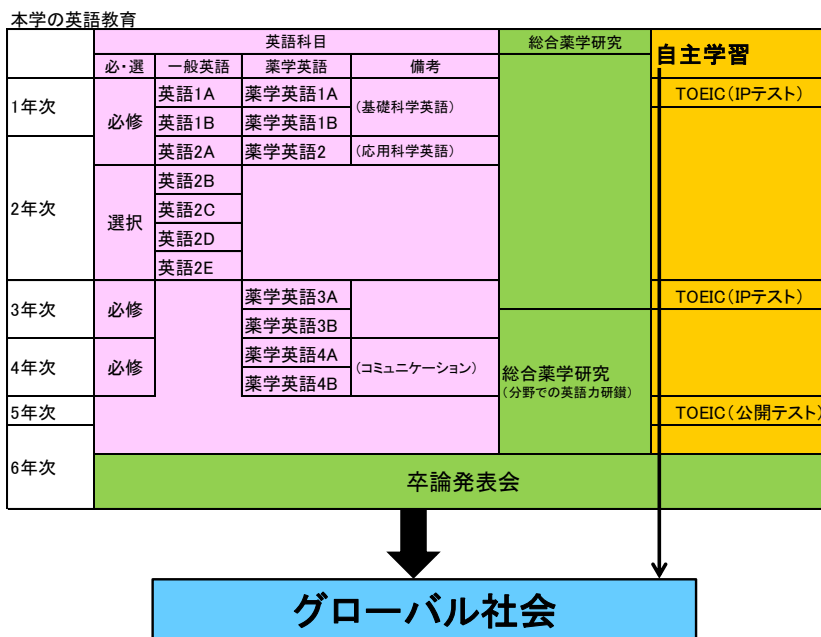
年次	試験の種類	ガイダンス		申込期間	試験
1	IPテスト	4月	新入生ガイダンス	－	4月
3	IPテスト		履修ガイダンス	－	10月
5	公開テスト			4月	6月
				10月	12月
6	公開テスト			4月	6月

- ・3年次生の試験日は、学生実習の日程に合わせて、2～3グループに分け実施する予定です。
- ・5年次は実務実習期間を考慮して、年2回実施します。ただし、受験できるのは年1回のみとします。
- ・6月の公開テストの試験日は6月23日（日）です。
- ・6年次生については、2013年度のみの特例措置です。

【公開テストとIPテストについて】

TOEICのスコアとして公式に認められるのは、公開テストのスコアです。公開テストは全国の会場で年10回開催されます。

IPテストとは団体特別受験制度（Institutional Program）のことで、試験問題は他国で実施された問題を使用します。試験日については実施団体（この場合は京都薬科大学）が任意の試験日を設定します。理論上、スコアについては、公開テストと同じとされています（そのため就職の際にも同等に扱われる場合が多い）。



「卒業生からのメッセージ」

尖がった才能



安達 祐介

2002年学部卒業

2007年博士後期課程修了

(代謝分析学教室)

味の素株式会社

イノベーション研究所 研究員

私は、博士後期課程修了後、2007年から味の素株式会社に研究員として入社し、アミノ酸の健康機能に関する研究を行っております。2011年からは、派遣研究員として、ハーバード大学医学部附属ジョスリン糖尿病センターで研究をさせて頂いております。私は、ほんの二年間だけですが、米国での研究や日常生活を通して、色々なことを学んだと思っております。しかしながら、それらは米国を見て、日本の良い点や悪い点に気づいたと言った方が正しいかもしれません。現在の世界の情報は簡単に手に入りますし、特に米国の情報はどんどん日本に入っておりますので、正直、渡米してからカルチャーショックは感じませんでした。もちろん、言語、文化やシステムなどは異なりますが、基本的な考え方や道徳的なことにそれほど大きな違いを感じることはありません（あくまで、日本と北米を比較した場合です）。

その様な中で、気づいた大きなことの一つは、日本人の平均値が極めて高いということでした。研究

の分野において、もちろん世界をリードするトップ達は、優秀な人ばかりです。しかしながら、その下で働く研究員は、本当に差があります。それぞれ得意な分野を持っており、それ以外は全く出来ない「尖がった人」が多いです。それらの人達を組み合わせながら、仕事を進めております。

この日本人の平均値の高さは、誇っていいものだと私は思っておりますが、弊害もあるような気がいたしました。会社などの組織の中では、いろんな業務にまわされる機会が多いです。そして、なんでも出来る人は「優秀な人」と言われます。確かにクールでかっこいいです。でも、果たしてそうでしょうか？一つのことは出来るのに、後は何も出来ない、「尖がった」人間…この様な人は？組織の総合力で見た場合、優秀と言われる平均値の集団よりも、尖がった人達がより多い組織の方が総合力は高くなると思っております。しかしながら、日本では、こういった「尖がった人間」は、周りに抑制されたり、本人が、その「尖がった部分」それに気づいていない場合が多いような気がいたしました。人が出来る事が出来ない、劣等感を感じる場合が多いからです。簡単に言うと、米国は加点方式、日本は減点方式の考え方が強い気がいたします。その人が、何が出来るか、ではなく、その人は何が出来ないのかを気にする傾向が日本は強いと感じます。

その様な環境の中で、就職活動や進路を決定するのは、難しい場合があります。上記のことを一度思い出して頂き、ぜひ自分の強み、尖がっている部分は、何なのかを一度考えてみて下さい。また、周りの人達の尖がった部分を探すと、その人に対する不満や見方も変わるかもしれませんね。

学内合同企業説明会を開催しました！

進路支援課

製薬企業等の採用活動が本格化する前に、各企業の採用担当者に大学へ来ていただき、学生と企業との接点を持つ場となるのがこの学内合同企業説明会です。希望企業を選定するための一助となることを目的としたこのイベントの当日の様態並びに学生や企業からの感想などをお伝えします。

学内合同企業説明会は、2012年12月25日（火）に本学躬行館で開催されました。食堂とセミナー室を使い、午前26社、午後26社の計52社の企業に参加して頂きました（詳細は下記参照）。

当日は、本格的な就職活動を開始した5年次生を中心に、将来の就職を見据えた1年次生から4年次生が、この貴重な機会を活用しようと集まりました。5年次生は午前143名・午後142名、他年次生は午前40名・午後27名、全体で午前183名・午後169名が参加

しました。各企業の説明に真剣な表情で耳を傾け、積極的に質問する熱心な姿は、企業側の印象に残ったと思います。

参加した5年次生からは、「同じ職種でも会社ごとに違いが感じられ、どのような職種が合っているか確認することができた」などの意見が挙がっています。一方、企業からは、「意識の高い学生と接触が出来て良かったと思います」「学生から質問を多くいただき、積極性を非常に強く感じました」などの感想が寄せられました。

進路支援課では、今後も学生や企業等のご意見をいただきながら、説明会をより有意義な機会にしていきたいと考えています。この機会を活かし、学生が充実した就職活動に臨めることを願っています。



《午前（9：30～13：00）》

業種	参加企業名						
製薬企業	旭化成	アストラゼネカ	大塚製薬	小野薬品工業	京都薬品工業	クラシエ製薬	
	興和	三和化学研究所	塩野義製薬	大正製薬	大日本住友製薬	田辺三菱製薬	
	帝人	日本イーライリリー	日本新薬	マルホ	明治グループ	ロート製薬	
CRO(※1)	シミック	新日本科学		日揮ファーマサービス			
	パレクセル・インターナショナル			リニカル			
医薬品卸	ケーエスケー	スズケン					
その他	桃谷順天館						

※1 CRO：医薬品開発業務受託機関。製薬企業が行う医薬品開発に関する様々な業務を受託する機関。

《午後（14：00～17：30）》

業種	参加企業名
製薬企業	アステラス製薬 エーザイ MSD 科研製薬 協和発酵キリン グラクソ・スミスクライン サノフィ 沢井製薬 ゼリア新薬工業 第一三共 大鵬薬品工業 中外製薬 富山化学工業 日本ベーリンガーインゲルハイム ノバルティス ファーマ 久光製薬 藤本製薬グループ ヤンセン ファーマ
CRO	アスクレップ イーピーエス クインタイズ・トランスナショナル・ジャパン メディサイエンスプランニング
SMO(※2)	エシック サイトサポート・インスティテュート 総合臨床サイエンス
医薬品卸	メディセオ

※2 SMO：治験施設支援機関。医療機関が実施する治験に関する各種手続や実施する医師等を支援する機関。

2013年度前期学費の納入について

会計課

4月上旬、新入生以外の学生の保証人様あてに学費等の納付書を送付いたします。納入期限は以下のとおりですので、遅れないように学費等を納めて下さい。

学費等の納入期限：前期分 学費等 4月30日

- なお、やむを得ない事情でこの期日までに納付できない場合、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、速やかに学費延納願を提出して下さい(学費延納願の手続きは学生課で行っています)。
- 期日までに納入しない場合、講義・実習等の出席及び証明書の発行が停止され、正規試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となるため、十分注意して下さい。

<納入手続きのお願い>

金融機関で納入のお手続きをされる場合、本学から発送しました**納付書**をご利用下さいますようお願いいたします。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は納入確認が困難な事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意くださいようお願いいたします。

- ①振込人は本学納付書の太枠のお振込人欄に印字された**整理番号、学生氏名、金額**を必ず正しく入力して下さい。

【注意】

保証人名義や家族名義、その他の名義の預金口座から振り込まれることがあり、すぐに納入確認ができない事例が発生しています。

- ②**振込先の金融機関の預金口座**を確認し正しく入力して下さい。

2011年度以前に入学した学生には毎年、前期に学生自治会費※の納付書も同封していますが、会費は大学が代行して請求、収納業務を行っています。

そのため、学費と会費は金融機関が**全く別の預金口座**で管理しています。

学費と会費を合わせた金額が振り込まれたり、学費と会費の預金口座を間違えて振り込まれている事例が多くありますので、気を付けて下さい。

(※2012年度以降に入学した学生の自治会費は入学手続き時に納入済です。)

国立病院機構京都医療センターと 学術交流等に関する協定を締結

2012年12月12日に、本学にて武田理事長、乾学長、竹内副学長、後藤副学長、村澤事務局長および国立病院機構京都医療センターの中村院長、北村薬剤部長、長井事務部長の立会いのもと調印式を挙行し、学術交流等に関する包括協定を締結しました。今後は教育・研究面において連携する予定です。



洛和会音羽病院と学術交流等に関する協定を締結

2013年3月4日に、本学にて武田理事長、乾学長、竹内副学長、後藤副学長、村澤事務局長および洛和会音羽病院の松村院長、武内副院長、三浦薬剤部課長、八木経営管理部長、高下経営管理部主席課長の立会いのもと調印式を挙行し、学術交流等に関する包括協定を締結しました。今後は教育・研究面において連携する予定です。



奨 学 金 に つ い て

学生課

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。

募集については、随時奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（ただし留年中は停止になります）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 （無利子貸与）	自宅月額	30,000円、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	30,000円、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 （有利子貸与）	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

【奨学金の選考基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安			
			給与所得世帯		給与所得以外の世帯	
第一種奨学金 （無利子貸与）	4月	高校	通学形態		通学形態	
		評定平均値	自宅	955万円	自宅	469万円
		3.5以上	自宅外	998万円	自宅外	512万円
第二種奨学金 （有利子貸与）	4月	特に定めない	通学形態		通学形態	
			自宅	1,207万円	自宅	721万円
			自宅外	1,250万円	自宅外	764万円

注）1. 年収・所得の上限額は、4人世帯の場合の父母の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。

2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。

3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。

4. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返済の必要がない奨学金です。

貸与型奨学金の募集については、掲示板でお知らせします。

名 称	金 額（年額）	給付形態	採用予定数（2013年度）
京都薬科大学奨学金 （給付型）	新入生：半期授業料の1/2 在学生：5万円～20万円	給付	新入生約10名 ※1 在学生各学年約20名 ※2
京都薬科大学奨学金 （授業料減免型）	半期授業料の減免	減免 在学中4回まで 随時	約20名 ※3
京都薬科大学奨学金 （貸与型）	年額授業料の1/2以内	貸与 無利子 在学中1回 9月募集	約10名

※1. 入試成績優秀者を大学が選考

※2. 2年次～6年次生の成績優秀者を大学が選考

※3. 家計急変者（家計支持者の死亡、失業、廃業等）

■その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集のつど掲示板でお知らせしますので確認して下さい。本学に募集依頼がきていなくてもほとんどの地方自治体が奨学金制度を設けていますので、希望者は出身地の教育委員会に直接問い合わせして下さい。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】

奨学団体名	種別	月 額	出願資格
石川県教育委員会	貸与	44,000円	保護者が石川県内に現に引き続き3年以上居住している人
宮崎県教育委員会	貸与	53,000円	生計を主として維持する方が宮崎県内に居住している人
岐阜県教育委員会	貸与	32,000円	保護者が岐阜県内に住所を有する人
山口県奨学会	貸与	52,000円	保護者が山口県内に生活の本拠を有する人
朝鮮奨学会	給付	25,000円	韓国人、朝鮮人学生
交通遺児育英会	貸与	60,000円	保護者が交通事故で死亡または重い後遺障害のために働けず修学が困難な人
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気、災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている人

図書館利用のご案内

携帯端末から所蔵検索ができます

サービスメニュー

・ 雑誌新着 ・ 図書新着 ・ 図書検索 ・ 雑誌検索

URL はこちら <http://lib-opac.kyoto-phu.ac.jp/limedio/i/index.html>リモートアクセスができます

リモートアクセスとは、京都薬科大学が契約している電子リソース（データベース・電子ジャーナル・電子ブック）を自宅や出張先など学外から利用できるサービスです。

【リモートアクセス利用手順】

1. 図書館ホームページにアクセスする
2. マイライブラリにログインする
3. メニュー「図書館からのお知らせ」にある「リモートアクセスの使い方」をクリックする

* ご利用の前に「電子ジャーナルご利用前に必ずご一読ください」も併せてお読み下さい。

* 一部利用できない電子ジャーナル・データベースもあります。

マイライブラリからの学外文献複写申込み（5年次生・6年次生対象）

5年次生と6年次生の希望者は、学外文献複写を「マイライブラリ」から申し込むことができます。

- ・ このサービスは申請制です。
- ・ 申請書に必要事項を記入し、担当教員にサインをもらったうえ、図書館カウンターまでご持参下さい。
- ・ 登録には10分少々お時間を頂戴しますので、お時間に余裕がある時にご来館下さい。

【↓マイライブラリからの学外文献複写申込申請書↓】

<http://www.kyoto-phu.ac.jp/library/pdf/gakugaibunken.pdf>

館内整理日（休館しています）の入館について

原則的に月末は館内の整理整頓をするため休館ですが、5年次生と6年次生、大学院生、教職員の方で必要ときは入館できます。ただし、スタッフは作業に就いていますので十分な対応をできないときがあります。サービスは新着雑誌のブラウジング、文献複写物の受け取り、大判プリンターの利用などの簡易な用件に限られます。

開 館 日 程

2013年 4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2013年 5月

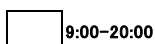
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2013年 6月

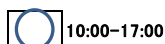
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						



休館



9:00-20:00



10:00-17:00



休館=館内整理

受賞

平成24年度日本薬学会近畿支部 奨励賞を受賞

病態生化学分野の石原講師・薬剤学分野の勝見助教が平成24年度日本薬学会近畿支部奨励賞を受賞しました。

演題：ダウン症モデルマウス胎児脳における変動分子の網羅的解析—ダウン症脳発達遅滞の治療標的分子の探索—

演者：石原 慶一、川崎 愛弓、金井 志帆、
山川 和弘(理研・神経遺伝)、
左合治彦(国立成育医療センター)、秋葉 聡

ダウン症モデルマウスの胎児期と成体期において変動する分子をオミクス解析により同定し、ダウン症精神遅滞の新たな治療標的分子／経路を提示した発表が評価されました。

演題：骨粗鬆症治療薬ビスホスホネートの次世代型
経皮吸収剤の開発—新規親水性パッチ製剤
を用いた経皮送達システムの開発—

演者：勝見 英正、草森 浩輔、坂根 稔康、山本 昌

難吸収性薬物である骨粗鬆症治療薬ビスホスホネートを皮膚から効率よく吸収させる新規親水性パッチを開発することに成功し、その有効性と安全性を示した発表が評価されました。

第24回ビタミンE研究会において 奨励賞を受賞

2013年1月11日～12日に慶応義塾大学薬学部にて開催された第24回ビタミンE研究会の口頭発表の部において、薬品物理化学分野の5年次生 大石利一さんがビタミンE研究会奨励賞を受賞しました。

演題：放射線耐性細胞の抗酸化機構とトコフェロールコハク酸誘導細胞死の関連

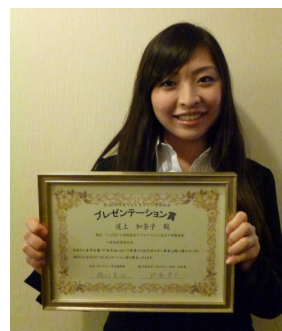
演者：大石 利一、濱 進、中村 伊吹、土谷 博之、
桑原 義和(東北大加齢医研)、
福本 学(東北大加齢医研)、小暮 健太郎

「第19回日本ヘモレオロジー学会」 においてプレゼンテーション賞を受賞

第19回日本ヘモレオロジー学会において、代謝分析学分野5年次生の道上加奈子さんがプレゼンテーション賞を受賞しました。本分野では亜鉛と生活習慣病の関わりを研究しており、本学会発表では亜鉛が骨粗鬆症による骨強度低下を改善できる可能性を示した研究成果が高く評価され、今回の受賞に至りました。

演題：SAMP6骨粗鬆症モデルマウスに及ぼす硫酸亜鉛の骨強度増強作用

演者：道上 加奈子、吉川 豊、
梶原 苗美(神戸女子大)、安井 裕之



第13回全日本学生ドイツ語弁論大会で 5位に入賞

2012年12月1日(土)に京都外国語大学ドイツ語学科主催の第13回全国学生ドイツ語弁論大会が開催され、主催校の京都外国語大学をはじめ、大阪大学、北海道大学など全国19大学から24人が参加しました。

初出場となる本学の5年次生大原菜穂さんが、関西学院大学、東京外国語大学、慶応義塾大学などドイツ文学科やドイツ語学科を持つ強豪校おさえ、見事5位に入賞しました。

演題：「よりよき人生のために」

日本人の新しい生き方として長期有給休暇の必要性を訴える内容で、的確な言葉の使い方、明瞭な発音、わかりやすい論旨がドイツ人審査員の心を見事にとらえ入賞しました。



お知らせ

他大学の科目・講座を受けてみませんか？！

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます（2012年度は51大学から547科目が提供されました）。つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます（2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます）。本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい。

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
 - ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
 - ③持出講義は、「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて開講される。
 - ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
 - ⑤受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
 - ⑥全ての科目を無料で受講できる（ただし、科目によっては、参考書等テキスト代等が必要）。
- などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月11日（木）までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要等については教務課にて配布している「単位互換履修生募集ガイド」を見て下さい。

また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><https://el.consortium.or.jp/login.php>

<携帯><https://el.consortium.or.jp/cns510.php>

科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

学生相談室のご案内

充実した学生生活を送るために、学業のこと、家族のこと、友だちのこと、自分のこと…どんなことでもお気軽にご相談下さい。精神科医および臨床心理士による相談室があります。

相談内容について、秘密は全て守られます。

学生相談室担当

精神科医1名

月1回、詳細日程は毎回掲示にて確認して下さい

臨床心理士3名

曜日：毎週火・水・金曜日（変更の可能性あり）

カウンセリング時間はお問い合わせ下さい

場所：愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム

相談方法：医務室で相談日時の予約をして下さい

受付：学生課・医務室

連絡先：学生課 075-595-4614（直通）

E-mail: gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

不審な問い合わせにご注意下さい！

学生の実家へ京都薬科大学の職員などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話があった場合は、「答えられない」とはっきり拒否していただくとともに、お手数でも学生課にご連絡いただきますようお願い致します。※本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは一切行っておりません。

連絡先：学生課 075-595-4614（直通）

自治会主催クリスマス企画

今年度も自治会では、クリスマスに向けてクリスマス企画を実施しました。

皆様にクリスマスの雰囲気を楽しんでいただこうと思い、愛学館と躬行館にクリスマスツリーを設置したり、ツリーだけではなく音楽を流したりと少しでも雰囲気が出るようにしました。途中でツリーの電灯が壊れるというアクシデントも起こってしまい、電灯を取り外すことになってしまいましたが、学生課や警備の方々の協力もあり、無事に終えることができました。

今後とも、学生が楽しく豊かな学生生活が送れるような企画ができればと思っております。

至らない点も多々ありましたが、企画を無事に終えられたことに、この場を借りてお礼を申し上げます。

自治会執行部

京薬祭 フリーマーケット企画

2012年度京薬祭においてフリーマーケットを開催致しました。

その売り上げ全額を国境なき医師団に募金しましたところ、国境なき医師団より感謝状を頂きましたので、報告させていただきます。

皆さま方のご厚意により、こうした形で医療団体に貢献出来たことを大変うれしく思っております。ありがとうございました。

2012年度京薬祭実行委員
フリーマーケット企画 企画長 宇野智哉

2012年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式

2012年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月16日（土）午前10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院 博士後期課程5名、博士前期課程6名に学位記（博士又は修士）、学部 薬学科356名に卒業証書・学位記（学士）が乾学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、本学中央講堂兼体育館で、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

2013年度 オープンキャンパス開催のお知らせ

2013年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内下さいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。どうか、入試課にお問い合わせ下さい。

2013年6月のオープンキャンパス

〈日時〉2013年6月9日（日） 10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会などを予定しています。

2013年8月のオープンキャンパス

〈日時〉2013年8月3日（土）・8月4日（日）

時間については、追ってホームページでお知らせします。

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・在学生の話・施設見学・相談会などを予定しています。

2013年11月のオープンキャンパス

〈日時〉2013年11月3日（日） 京薬祭開催期間中
10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会などを予定しています。

学位記（博士）授与式

3月16日（土）11時30分から愛学館第1会議室において、2012年度課程博士5名及び課程によらない博士（後期）5名に、乾学長から学位記が授与されました。

人 事

昇 任

創薬科学系生薬学分野	教授 松田 久司
病態薬科学系薬物治療学分野	教授 加藤 伸一
薬学教育系教育研究総合センター 薬学教育研究センター	助手 西村 奏咲
薬学教育系教育研究総合センター 臨床薬学教育研究センター	助手 松尾 道代

採 用

基礎科学系一般教育分野	准教授 野崎亜紀子
基礎科学系一般教育分野	講師 坂本 尚志
薬学教育系教育研究総合センター 薬学教育研究センター	助手 吉村 典久
生命薬科学系微生物・感染制御学分野	助教 林 直樹
事務局学生課	契約事務職員 三田 祥子
	(以上 2013. 4. 1付)

(特別教員)

医療薬科学系薬剤学分野	助教 草森 浩輔
病態薬科学系臨床薬理学分野	助手 大東 誠

(教育研究支援教員)

薬学教育系教育研究総合センター 薬学教育研究センター	助手 高木 愛未
-------------------------------	----------

(特命教員)

薬学教育系教育研究総合センター 臨床薬学教育研究センター	特命教授 石津 雅弘
---------------------------------	------------

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 中嶋 澄江
(以上 契約期間：2013. 4. 1～2014. 3. 31)

配置換

放射性同位元素研究センター 准教授 山岸 伸行
(2013. 4. 1付)

退 職

事務局庶務課 契約事務職員 高木 泉
(2013. 2. 28付)

創薬科学系生薬学分野 教授 吉川 雅之

病態薬科学系薬物治療学分野 教授 竹内 孝治

基礎科学系一般教育分野 教授 秋澤 雅男

薬学教育系教育研究総合センター

薬学教育研究センター 講師 隅田 芳男

薬用植物園 講師 後藤 勝実

放射性同位元素研究センター 講師 村田 保

分析薬科学系代謝分析学分野 講師 吉川 豊

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 佐藤 隆司

事務局学生課 契約事務職員 土井 明香
(以上2013. 3. 31付)

京薬会だより

<クラブ活動支援分配金の贈呈>

昨年度も京薬会より各クラブに対して活動支援のためのクラブ活動支援分配金を29クラブに総額80万円を贈呈しました。

<2013年度 京薬会代議員総会の開催予定>

2013年度京薬会代議員総会は5月18日(土)に開催します。当日は午前中に支部長会、そして午後1時に代議員総会を予定しています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席くださいますよう御案内致します。

<ホームカミングデー開催予定>

本年度のホームカミングデーは第3回となりますが、例年通り京都薬科大学大学祭「京薬祭」の開催に合わせ、11月4日(月・振替休日)に開催します。昨年は乾学長からの大学の近況報告に加え、西野会長による「京薬のいまむかし」、河野名誉教授による「花粉症について」と題する講演会も開催し、約100名の参加者を得て盛大なホームカミングデーとなりました。本年は更に充実したホームカミングデーとしたいと考え、企画を練っていますので、一度新しく生まれ変わった母校を訪問し、恩師や卒業生や在学生と交流してみませんか。多くの卒業生の皆さんの里帰りをお待ちしています。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2012年12月～2013年2月に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等(卒業年次順)>

牧 敬文(昭28) 森 道子(昭41) 武 俊樹(昭48) 森 司(平04) 京薬大58年卒同窓会
有志一同

<法人役員・評議員・職員(五十音順)>

上西 潤一(教授) 高瀬 明(主幹) 樋口 文子(係長) 山岸 伸行(准教授)
北出 達也(教授) 高野 江里(課長) 宮川 喬行(評議員) 山下 豊彦(課長)
後藤 直正(副学長) 谷村 和治(評議員) 森 新(評議員)
佐原 和美(係長) 阪 幸子(係長) 安本 義仁(課長)

(2013年2月28日現在)